

第4分科会 研究課題 「学校の組織・運営に関する課題」

研究主題 「あらゆるハラスメントのない職場づくり」

副 題 ～コンプライアンス推進上の教頭の役割を考えて～

延岡支会1班 延岡市立北浦中学校 山本 正和

1 主題設定の理由

ハラスメントを予防することは、子どもの人権を守ること、教員の生活を守ることにつながる。では、どうすれば、勤務校からハラスメントがなくなるのか。

ここ10年間の宮崎県内の不祥事件数は平成23年度27件から令和2年度4件と激減している。校内コンプライアンス研修を重ねてきた教頭として、そのことには安堵する。しかし、量定別発生状況では「免職」事案が10年間で一度もゼロの年はない。また、令和3年度に延岡市で2件起こったわいせつ行為事案に関しては、過去10年間の中で1年間に2件も起こったことがない。これは気を引き締める事案である。

このわいせつ行為が本市だけでなく全国で大きな課題になっていることは、令和3年5月「教職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が制定されたことでも分かる。

宮崎県の過去10年間の年度別懲戒処分発生件数を見ても、平成25年は20件であったものが、令和4年度には3件と明らかに減少しているのがわかり、効果が顕れているのがわかる。

そこで、教員の信頼が失われ、ハラスメント行為によって仲間を失うことを避けるために、教頭としてさらにコンプライアンスを推進することが重要になると考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

各中学校の現状を把握し、研修方法等を教頭会で研究することを通して、コンプライアンス意識を高め、あらゆるハラスメントのない職場づくりを目指す。

3 研究の概要と成果

(1) 研究の仮説

各校のコンプライアンスチェックシートを考察し、高評価Aが100%に近づくような研修方法を実践することで、集団のコンプライアンスに対する意識が高まり、ハラスメントがなくなるであろう。

「個人の更新」である。反対に意識が低いのは、「個人情報」と「交通法規の遵守」になる。「交通法規の遵守」においては、自家用車通勤者が多く、命に関わる重要な項目であるが、自分が不祥事を起こすことはないという慢心もあるのかもしれない。

項目	内 容	A:よくあてはまる B:少しあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない					
		A	B	C	D		
1 身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	272	93.2%	20	6.8%	0	0.0%
2 ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	289	99.0%	3	1.0%	0	0.0%
3 飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で行かないように努める	266	91.1%	26	8.9%	0	0.0%
4 人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	255	87.3%	38	12.0%	2	0.7%
6 個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報を入れず、情報モラルをしっかり守る	207	70.9%	72	24.7%	13	4.5%
6 体罰・暴言	殴る・蹴るをつかわし・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	234	80.1%	52	17.8%	6	2.1%
7 SNS	SNS等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面談で行う	284	97.3%	8	2.7%	0	0.0%
8 予算	予算執行や給費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、現金を一人で管理しない	266	91.1%	25	8.6%	1	0.3%
9 運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	212	72.6%	76	26.0%	3	1.0%

イ 令和4年度

令和4年度については、高評価Aを100%にする取組を行ったこともあり、「1身体接触・2ライセンス・7SNS」が特に高評価を記録した。やはり評価が低いのが、「5個人情報・9運転」であるが、令和3年度と比較すると高評価Aが10ポイントほど伸びている。個人情報のD0.4%が少し気になる。延岡市内各中学校教頭が、職員会等で意識付けを行い、夏季休業中に事例研を積極的に行ったことが好結果と繋がったのではないだろうか。

項目	内 容	A:よくあてはまる B:少しあてはまる C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない					
		A	B	C	D		
1 身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	224	98.7%	3	1.3%	0	0.0%
2 ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	225	99.6%	1	0.4%	0	0.0%
3 飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で行かないように努める	217	95.6%	10	4.4%	0	0.0%
4 人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	219	96.5%	8	3.5%	0	0.0%
6 個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の写真や成績等の個人情報を入れず、情報モラルをしっかり守る	182	80.2%	39	17.2%	5	2.2%
6 体罰・暴言	殴る・蹴るをつかわし・押し倒す等の体罰や感情的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	208	91.6%	19	8.4%	0	0.0%
7 SNS	SNS等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、相談は学校での直接面談で行う	226	99.6%	1	0.4%	0	0.0%
8 予算	予算執行や給費・部活動費の金銭の出し入れにおいて、現金を一人で管理しない	220	96.9%	6	2.6%	1	0.4%
9 運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	194	85.5%	32	14.1%	1	0.4%

ウ 令和5年度

令和5年度について評価が高いのは、「2ライセンス・7SNS・8予算」である。予算について、今年度が高かったのは、県内で予算執行に関わる事例があったことで、職員の意識が高まったのではないかと考えられる。令和4年から引き

続き評価が低いのが、「5 個人情報・9 運転」である。また、「1 身体接触・3 飲酒・4 人間関係」共に5ポイント程度低下している。評価が著しく低下はしていないが、令和3年度～5年度にかけて、「5 個人情報」が、R3-70%→R4-80%→R5-71%と上下している。

項目	内 容	A		B		C		D	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1 身体的接触	不必要な身体的接触や性的なからかい・冗談など、相手の嫌がるセクハラは絶対に行わない	275	92%	21	7%	2	1%	0	0%
2 ライセンス	運転免許や教員免許の更新を確実に行う	296	99%	3	1%	0	0%	0	0%
3 飲酒	飲酒の際は、翌朝お酒が残らないように、飲む量には十分注意し、飲み会には、車で参加しないように努める	270	90%	30	10%	0	0%	0	0%
4 人間関係	職場の人間関係を良好に保ち、精神的・身体的苦痛を与えるハラスメントは絶対に行わない	274	92%	24	8%	0	0%	0	0%
5 個人情報	スマホ・タブレット等に児童生徒の家族や成績等の個人情報を入力し、USB等記憶媒体の管理を適切に行うとともに情報モラルをしっかり守る	213	71%	77	26%	10	3%	0	0%
6 体罰・暴言	殴る・蹴るをつかむ・押し倒す等の体罰や威嚇的な暴言を吐くことは、いかなる場合も行わない	268	89%	30	10%	2	1%	0	0%
7 SNS	SNS等で、児童生徒との私的メールのやりとりは原則として行わず、個別は学校での直接面談で行う	294	98%	6	2%	0	0%	0	0%
8 予算	予算執行や給食費・部活動費の金庫の出し入れにおいて、通帳・現金を一人で管理せずに、校長の下、職員で厳正に管理する	284	95%	12	4%	2	1%	0	0%
9 運転	車を運転する際には、交通法規を遵守し、交通事故・違反を起こさないように十分注意する	246	82%	50	17%	4	1%	0	0%

エ 令和3年度から令和5年度にかけての考察
(ア) 成果

データをとった3年間高評価を維持してきたのが、「2・ライセンス」「7・SNS」である。また、A・B評価の割合が年度を追うごとに伸びていることと、C・Dの評価が下がっていることが挙げられる。特に令和5年度は、Dが0%となっている。これは、宮崎県や延岡市の主催するコンプライアンス研修を受けて、各学校で具体的に研修をした効果が顕れたと考えられる。

(イ) 課題

令和4年度は、高評価Aが100%に近くような取組を集中的に行った。これにより、調査9項目中7項目が90%を超え、100%に迫る項目が増えたが、令和5年度は、その意識を強化しなかったため、100%に迫る項目が減少した。管理職の意識による働きかけの違いが顕著になった。

オ 関連する取組

コンプライアンス推進委員会で決めた下記のようなテーマに沿った資料を模造紙に拡大し、職員室後方に貼り、常に目にするようにして意識を高めさせている。

【資料1】

南中飲酒運転根絶にむけて3つの約束

1 飲み会に車を持って行かない

2 翌朝、早い時は2次会に行かない

3 アルコールが抜ける時間を知っておく



南中コンプライアンス推進委員会

【資料2】

3 生徒とメール、SNS等でのやりとりはしません。また、生徒個人のメールアドレスや電話番号を自分の携帯・スマホ等に保存しません。

4 生徒を自宅に招いたり、車に乗せたりしません。やむを得ずケガ等で自宅に送る際には、他の職員と保護者に連絡をしてから送ります。

5 教育の目的以外で、生徒を写真撮影したり、ビデオ録画したりしません。また、撮影・録画を自分の携帯・スマホ等に保存しません。

南中コンプライアンス推進委員会

4 研究の成果と課題

(1) 研究の成果

- ① 管理職が受ける研修の伝達研修を行うことにより、職員のコンプライアンス意識の高まりが感じられた。
- ② 延岡市内の教頭が共通してコンプライアンス研修を行うことにより、市内の共通認識ができた。

(2) 研究の課題

- ① 評価項目の中で「5・個人情報」「9・運転」の項目について、3年間を通して100%に近づけることができなかった。
- ② 評価が高くなっていくことによって、これまで行ってきた注意が散漫となり、コンプライアンスの意識が低下していくことが懸念される。
- ③ 仮にアンケート結果が100%になったとしても何か一つの事案が発生すればアンケートの数値は何の役にも立たなくなってしまう。事案を発生させないために、「私たちにできることは何か」を考えることが必要である。